

パラヤマン市近郊の村で医療支援活動を行うAMDAAを視察する谷合氏(左から2人目) 11日(撮影・倉科宗作)



AMDAAの活動現場へ

アムダ

スマトラ 日本での医療支援を調査 島沖地震

「ジャカルタ12日＝倉科宗作」インドネシア・スマトラ島沖地震の復旧・復興調査で現地入りしている公明党の谷合正明青年委員長(参院議員)は12日、西スマトラ州パダン市北西部のパリヤマン市郊外の村を視察した。パダン市と比ベインフラ整備が遅れているインドネシア日本友好協会のギナンシャル会長(中央)らと意見交換する谷合氏(左)13日

パリヤマン郊外の農村地域では建物の崩壊が激しく被害も甚大。現場を見た谷合氏は「本当にひどい状況で復旧には相当な時間がかかる。地元住民を手助けできる支援が必要」と語った。

また谷合氏は、同地域で医療支援を行っている日本の自衛隊や、国際医療支援NGO「AMDAA」(本部・岡山市)などの活動状況も視察。現場スタッフの話によると、現在

公明・谷合氏

タルケアや慢性疾患などへの対応が中心という。谷合氏は「被災状況について緊急的な課題と中長期的な課題に分けて、日本政府に支援を働き掛けていきたい」と語っていた。

また、住居支援を行っている日本のNGO団体JEN(ジェン)が被災地で住民から聞き取り調査を行っている現場も視察した。12日の現地報道では、西スマトラ州の小・中・高校のうち全壊は899校、半壊は581校に上る。校舎が全壊した学校ではテントを張って授業を再開する予定で、テントの緊急確保が課題になっていることも確認した。